

19

73

論物廢不教督基

譯郎五橋高
本 日
全

020509-000-4

19-73

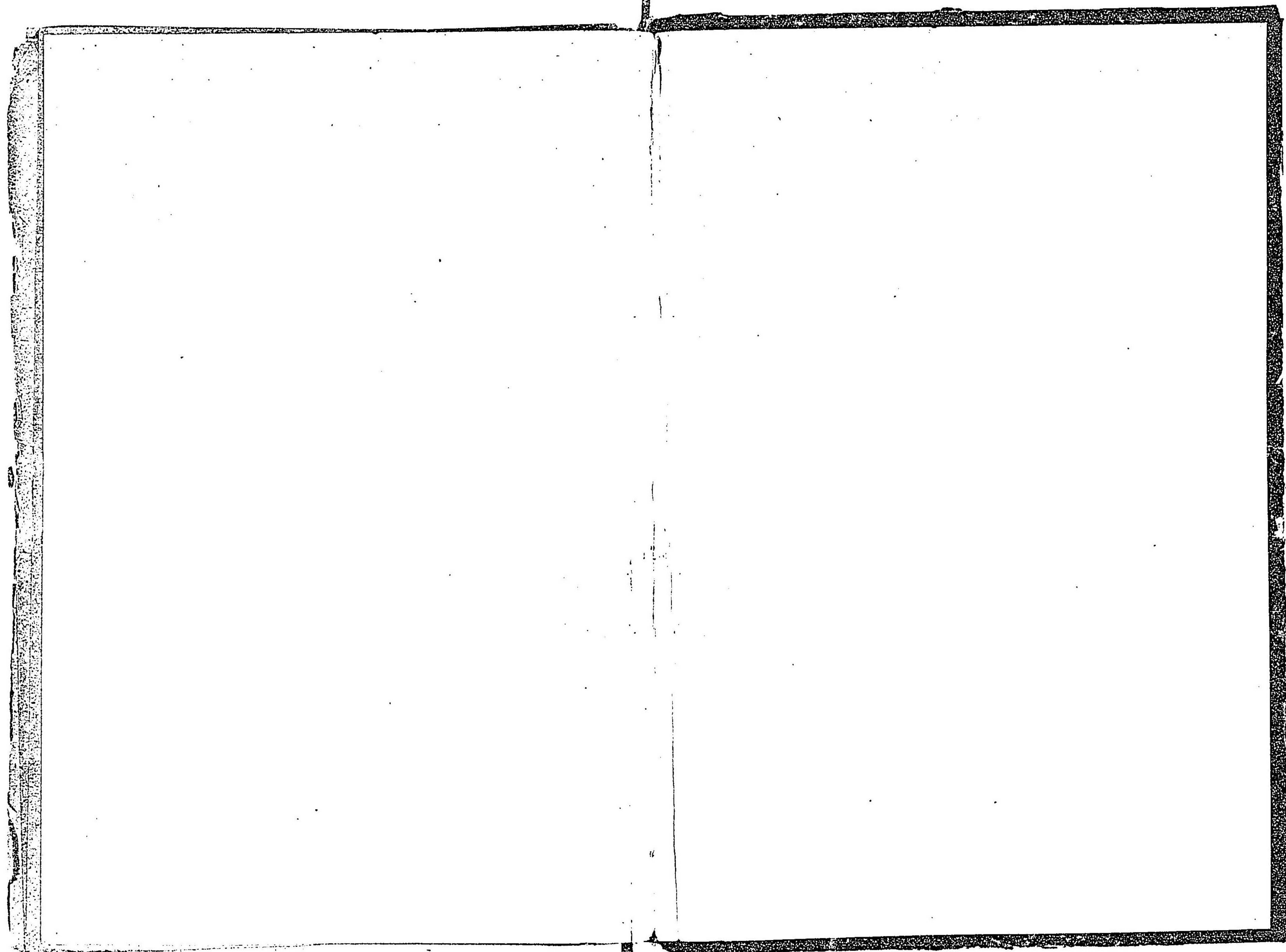
基督教不廢物論

フルベッキ/著

M21

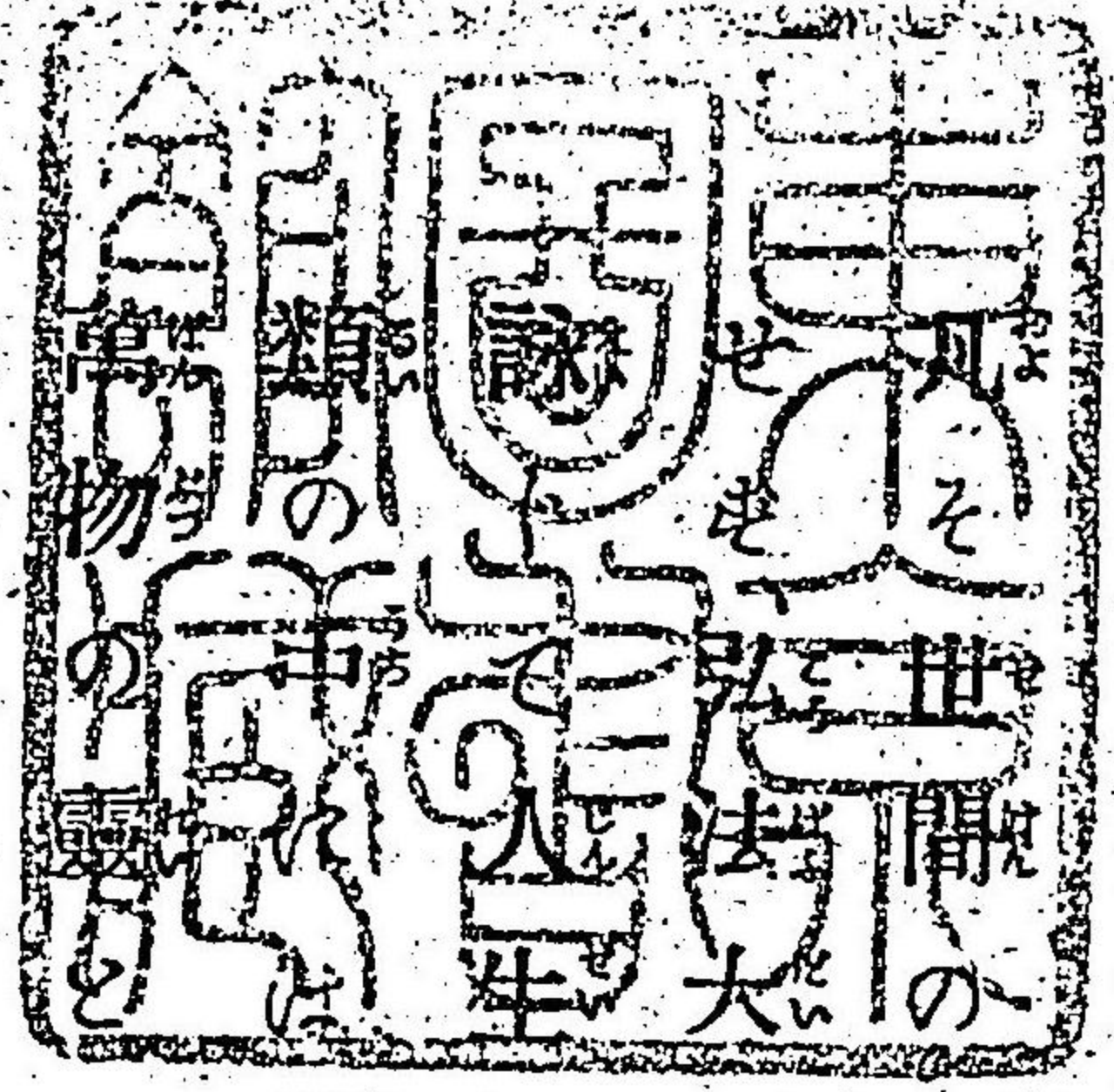
ABI-0320





No 12787

19-73



誰かキリスト教も亦廢物となる

博士フルベツ



事^{コト}物^{モノ}は念^{ネン}念^{ネン}に遷^セ流^{リウ}して暫^{シヤク}くも安^{アン}住^{ジュウ}
 師^シもいろはにほへどちりねるをと
 無^ム常^{ジョウ}の觀^{カン}念^{ネン}を萬^{マン}世^{セイ}に示^シせり、夫^ソれ蟲^{ムシ}
 朝^{アサ}に生^ナれて夕^{ユフ}に死^シするの蜉^フ蝐^{セウ}あり、
 も自^ジ稱^{ジョウ}する人^{ヒト}類^{ライ}にありても其^{ソノ}富^フ貴^キ
 榮^{エイ}華^カは唯^タ是^レ瞬^{シュン}間^{カン}の夢^{ユメ}而已^ニ、萬^{マン}國^{コク}史^シに就^クて古^コ今^{キン}を
 通^{ツウ}覽^{ラン}するに上^ニ古^コ盛^{セイ}大^{ダイ}にして中^{チュウ}古^コ衰^{スイ}亡^{ボウ}せし邦^{ホウ}國^{コク}
 あり、中^{チュウ}古^コ繁^{ハン}榮^{エイ}を極^{キョク}めて現^{ゲン}今^{キン}式^{シキ}微^ヒに際^{サイ}する王^{オウ}室^{シツ}

あり、總て天下の事皆是の如し、是を以て人或は
謂らく此二千年の昔に起りたるキリスト教も
亦此運命を免れざして現今は已に時世に後れ
て廢滅に歸するに際せしならんと、此推量は不
當なるに非ざと雖も之を基督教に當て用ふる
に於ては大に誤まれり、基督教は久しき年代を
經來りしと雖も是決して廢たる可き者に非ざ、
今余が此に聊か論せんとする所は實に此點に
在り、
今論者の意を察すれば蓋し斯の如くなる可し、

曰く大凡人爲の事物は變遷して時時刻刻に其
形を變ぜ、今日の家は昨日の家に非ざ、明日の家
は又今日の家ならト、又社會の法律制度は其創
立の昔より今日に至るまで幾度の變改を受け
しや知る可らざ、僅か百年以前に成りたる亞米
利加合衆國の憲法の如きも此數十年間に種種
の改正變易を蒙れり、又今日まで最も著しき
變改を經來れる者は戰鬪の術及び兵器の種類
に在り、彼大勇將アレキサンデル、シーサル、ナヤ

―ルズ大王、ゴスターフ、アドルフ、レフデリク第

二世チポレオン帝、モルトキ將軍等の名を擧ぐるも已に其人々の用ひたる武術の各異なれる事明かに知らる可し隨て又武具兵器に變更ありし事言ふを俟せ、海軍に於ても亦然り、八十年前に英將チルソンは木造の帆船を以て佛蘭西の艦隊を破壊せり、然れども今日に於ては彼が如き木造船は毫も戦争の用に適せせ、又製造に用ふる器械の如きも常に改良に由て變易す、又學術の如きも之れと同下、百年前に大學者が著はしたる天文地理醫術等の書類も今日となり

ては殆ど用ふ可らせ、加之天地の大道を講究する哲學すらも古今其言ふ所を異にする有り、今誰かギリシヤ、ローマの哲學を有りの儘に採用せんや、又國々の習慣風俗等も移り替りて定まれる所なし、此僅僅二三十年間に日本國の風習の變つたる事實に驚くにたへたり、又宗教に於ても其變易實に大なり、彼の古代に尊嚴無比と仰がれたりと希臘羅馬のシニピタル神は今何くに在るや、英國の古教ドルイド教の如きも其名は今日まで史上に傳はれども之を信奉する

者はシーザル帝の時代以來一人もあること無
し其他歐洲各國の上古に行なはれし他神教の
如きも遠き昔に已に廢絶して今は影たに止む
る無し夫れ世間の宗教古來是の如く變易して
常ある無し是を以て推し來れば基督教も亦教
なれば早晚之れと同一の運命に遭遇せざる可
らざる乎世間の宗教を以て基督教を推すの徒
は皆是の如く思惟して曰く基督教も今は已に
廢物とならんとすと
想ふに今日に在て基督教の必要ならざるを論

ある者此外亦一あるを見る是即ち進化論と云
ふに基く者なり其説く所大率是の如し凡を進
化には新陳交代の變改あり茲に突如として一
新説起るや其説忽ち流布して世人の信用を得
舊説を壓倒して愈其勢威を振ふ世人之を目し
て一新進化と稱す然るに此説已に其極度に達
するや恰も老朽の人の如く次第に衰へ來りて
終に全く斷滅に歸す此時に當りて又復突然と
他の新説起り來りて之が地位を奪つて勢力を
世間に及ぼす是の如き新陳代謝の進化古來其

八
數甚た多し國家の風俗よりして學術器械等皆
多少此類の進化を經來らざるは無し、宗教の上
にも亦此類の經歷なきに非ざ、今之を適用して
基督教を評せん其教たる大凡一千八百五十
年の昔に在て一小種を發し其種子芽をふきて
愈盛んに成長し終に歐洲の全面に枝葉を伸べ
根柢を張りて億萬の生靈を其蔭に宿らせたり、
從前の他神教の如きは風を望んで萎靡し復戰
を挑むの勇氣ある無く、面色あたかも土の如く
にして復血液の運行するある無し、是に於て固

陋の風俗一變して文明の大陽赫々と東天に登
れり、其功亦偉大なりと謂ふ可し、然れども基督
教も亦盛衰の數を免かれず、此三百年來許多の
進化、種種の發明ありて世界の面目一新となれ
ば從前の基督教も今は早や時世に後れて將に
廢滅の運に近づかんとすと、是蓋し進化論を取
りて基督教を評する人の常語なり
以上二類の人が論ぜる所は其法異にして其趣
一なる者なるが深思熟慮の人に非るよりは此
論に同意せざる者或は少なからん、如何となれ

ハ萬物皆年を経るに隨ひて變易し、百事悉とく
時と共に新陳代謝すれば也、此遷流常なきの中
間に立て基督教獨り如何にして萬世に永存す
る事をうるや、世人の此間に疑を容る事も豈無
理ならんや
然りと雖も更に一步を進めて考ふるに此議論
推測たる其一を知て未だ其二を知らざる者と
謂ふ可し、凡そ天下の諸事變遷代謝する者多し
と雖も又萬古に涉りて絶て變易せざる者多し、
基督教の如きは其萬古不易なるに屬する者な

り、是故に基督自ら明言して曰く、

天地は廢せん、されど我が言は廢せし(馬太傳

廿四章卅五節、馬可傳十四章卅一節、路加傳廿

章三十三節に出づ)

と、見るべし此教の確乎として動かす可らざる
者なるを

抑時と共に變遷する者は重に形質を具ふる者、
又人が智力を運用して發明せる者、輿論に因て
出來れる事、古傳説に本づきて成立つ者、及び風
俗習慣の類に止まれり、是等は皆歲月の進むに

つれて變改するを常とす然れども又時と共に
 推移らざる者あり即ち天然の原素物質固有の
 性質又自然法の運動原因結果等の關係又天地
 の道理事物の原理及び善惡の基礎たる道德法
 の如きは決して年月日時と共に移り易はる者
 に非ぞ殊に永遠かはらざる者は全知全能の神
 又其神の聖旨及び此聖旨に合するの事物に在
 り想見よ基督教は此に掲げたる其變易常なき
 の事物を以て組織したる者に非ぞ基督教は無
 形に屬するの教なり永遠存在したまふ全知全

能の神の聖旨に本づきたる者なり是故に基督
 教は決して時日と共に替はるの事ある無し是
 故に耶蘇基督また言へるあり曰く

我教ふる所は我が教に非ぞ我を遣せし者す
 なはち神の教なり人も我を遣はし者
 旨に従はば此の教(即ち基督教)の神より出る
 か又己れに由りて言ふなるかを知る可し(約
 翰傳七章十六十七節)

又曰く

我已れに由りて言ふに非ぞ我を遣はせし父

(神)我が言ふ可き事我が語る可き事を命じた
まへる也(約翰十二章四十九節)

又曰く

我爾曹にわが父より聞きし所の事を盡く告
ぐに縁(約翰傳十五章十五節)

耶蘇基督は是の如く全知全能の神父の聖旨を
體じて言語動作せられたるが故に又世人が決
して言ふ能はざる所の辭を發せられたり曰く
凡て我が上の言を聽て行ふ者を磐の上に家
を建たる賢き人如磐へん、雨ふり大水出で風

吹きて其家を撞きも倒る事なし、是磐を礎な

したれば(馬太傳八章廿章)

と此の磐と云ふ者は聖書中なる他の明文に照
らして考ふれば其神の洪大無邊なる聖意を指
したる者なる事明か也是故に基督の御口より
出で基督教の基礎と成りをる其聖言を尋常世
間の言語と同一視するは誤謬の大なる者と謂
はざる可らば、夫れ基督教は是の如く世俗に超
然たる天啓教をれば決して世の變遷と俱に推
移る者に非ざとす、

但し人或は言はん、基督教の永遠變せぬと云ふは其實を得たる者に非ず、萬國史又は教會歴史に徴するに基督教が今日までに受來れる變化も亦甚多し何ぞ萬世不易と主張す可んやと、然れども此論者も亦未だ全象を見ざるの徒なり、夫れ基督教には無形の教と有形の教會ありて存す、論者の如きは此二者を混一にして漫然人を非難する者と見做す可し、基督教の一たび起るや世人聖書に載たる基督の教に本づき又基督の弟子等の例に倣ひて教會といふ者を設立

せり、然れども其無力なると妄念と時勢との爲に種々の誤謬に陥りて大に聖書の説と齟齬するに至れり、使徒パウロの書中にも屢是の如き迷謬惡弊を詰責したる有り、爾來幾度となく此の如き誤謬あり、是の如き改正あり、即ち教會といふ者に關きては今日までに種々の進歩改良ありと決して是萬代不易なる者に非ず、然れども教會の變改は基督教の變改には非ず、人の組立る教會の變トたればとて決して基督教の變トたりとは言ふ可らき、又教會の外尙基督教に

本づいて設けたる制度禮典等多し、是等も亦變
 改して永久ならせ、然れども基督教は毫も之が
 爲に變易する事なく、凡て是等の諸事は本是完
 全なる者ならざれば、進歩するも固より其理あ
 り、然れども基督教は本と神より出て全體完た
 き者なるが故に、此上進歩するの必要ある無し、
 是を以て論者が思ふ如き變更を経たる跡絶て
 ある無し、其教會に進歩ある者も益進みて此基
 督の教に近よるに在る耳、
 但し尙又此に此解説に不同意を表する者あり、

て言はん我耶蘇教の神學書を博く閱するに其
 昔より今日まで變つ來れる跡亦著ると、焉ん
 ど基督教は變する事なくと明言するを得んや
 と、然ども此論者も亦肝要なる區別を見落した
 る者と謂はざる可らば、神學が古來に多少の變
 改に遭遇したればとて直ちに基督教が變改し
 たりとは論せ可らば、神學は決して基督教に非
 るなり、所謂神學は只是一箇の學問たる而已、夫
 れ天文學者は造物者が聖旨のまゝに宇宙に排
 列したる日月星辰を推歩考覈して其距離運動

速力等を明かにして以て天文學を立つ是の如く神學者も亦神の啓示に由て成たる聖書を研究して神と人との關係、善惡の區別等を明かにして以て神學を設く、已に是の如くなれば古來の天文學者が推歩の上に誤謬を致せし事あると均しく神學者も亦神の意を推すに於て錯誤を致せし事なきに非せ、是の如く見來れば其歸する所知る可さ而已、即ち天文學者天文上に種々の變改進歩を爲し來りしと雖も決して日月星辰の天體に變更ありしとは言ふ可らき、是の

如く神學者が神意を窺ふに錯謬を致したりとて決して神意を載する聖書に變更ありとは言ふ可らき、世間の種々の學問には古來著しき進歩變改ありしと雖も之が爲に萬物の理に變更ありしとは言ふ可らき、何ぞ此理を思はざるや、又唯是のみならず、神學の進歩改良するは決して惡き事に非せ、憂ふべき事に非せ、神學の目的たる基督教の内部の道理を研究して之が眞意を明かにするに在り、故に此學問にして之が眞意を明かにするに在り、故に此學問にして進

歩せら之に隨て基督教の深義益明かに成るを
 得べし、豈亦善からせや、然れども之が爲に基督
 教の變更するなどは秋毫の末ほども有ること無
 し
 然りと雖ども論者の蒙を啓かんが爲に一言せ
 んに基督教とても亦廢物と成ること無しとは
 言ふ可らせ、今其場合を想像して説かんに、若し
 基督教の起れる所以と其取る所の目的にして
 盡く成就せられたらんには或は是は無用なる
 者とならん、今其場合の概略を描寫せん(1)若

し世界中に偽言を吐く者詐偽を行ふ者迷謬に
 沈む者不正を行ふ者一人も有ること無らんか、
 基督教は幾分か不用に成るあらん(2)又世間に
 聊も爭論不和嫉惡壓抑等の事ある無らんか、基
 督教は多少不用に歸せん、如何となれば基督教
 は是等の諸惡を矯正する爲に設けられたるな
 れば也、若し世上各國に戦争あること無んば基
 督教は左のみ用ひざるも亦可ならん、如何とな
 れば基督教の目的たる是の如き、殘虐を止めて
 天國の平和を滿天下に來すに在れば也、(3)若し

萬國の人の中、世の罪と己れの惡の爲に靈魂に鬱憂を感ぜる者一人として有ること無らんか、其時には基督教或は廢物とならん、如何となれば基督教は人を罪惡の中より救ひ出すが故に設られたる道なれば也、(4)若し世界中に憂患苦惱災害等の事絶て無からんか、基督教は或は廢物とならん、如何となれば此教は人の苦患を救ふを目的とすれば也、(5)若し全世界に罪惡の奴隸と成て全知全能の神の子たる安穩自由に入ること能はざる者一人もなからんか、然らば

基督教は用ひざるも可ならん、如何となれば基督教は神の眞理を以て眞正の自由を人に得させんとすれば也、(約翰八の卅二) (6)若し人類の中に人の人たる所以と、人の人たる本分と、人の人たる地位を知らざる者一人も無きに至らば、基督教は或は不用ともあらん、如何となれば基督教は人の人たる道を教ふる者なれば也、(7)若し自己の慾心或は名譽心に由て人間の進歩を妨ぐる者一人も無きに於ては、基督教も其必要すくなからんか、如何となれば是は萬民の惡心を

感化するを目的とすれば也(8)若し天下の人皆
 天の使の如くに善なる者となりたらんには基督
 教は或は不用とあらん、如何となれば世界の罪
 惡を除くは該教の目的とする所なれば也(9)若
 し天下に世事に心を奪はれて靈魂の貴重なる
 事を知らざる者一人たに有ること無くば、用ひ
 ざるも善からん、如何となれば教主耶穌は是の
 如き輩を尋ね救ふて限なき安樂を得させる爲
 也此教を説かれたれば也(路加傳十九章十節)(10)若
 し尋常の教育と世俗の學問を以て人をして惡

を離れて善に就かむるを得ると信ぜる人一
 人も世に無きに至らば基督教は或は幾分か手
 を休むるを得ん、如何となれば該教は是の如き
 迷妄を除きて人を善徳に導くを志す者なれば
 なり、(11)若し萬國の中に一人たに萬有の主宰た
 る神の聖旨に違ひて無神論や不可思議論を主
 張する者或は偶像を拜む者なきに於ては、基督
 教は或は廢物とならんか、如何となれば基督教
 は是の如き不信心を取除きて敬虔を天下に教
 ふる者なれば也

以上列擧する所の如きは只是想像の論のみ、其實を言はんは、神の諸徳性、神の聖旨、人類の情態、神と人との關係等の如き一切の大事依然として今の如くに存する限りは決して基督教は廢物と成る可らざる也、又爲す可らざる也、完全無缺象徳諸善の全備せる天國の此上に現る迄は決して基督教は無用なる者に非ざる也、又無用なる者と謂ふ可らざる也、

是故に基督教を目として時世に後れたる廢物と爲す者は限りなきの迷謬に沈める者と謂はざる可らざる也、世間萬般の事今は屢々として月に日に進歩して止む時なしと雖も尙未だ基督教の後に追つて能はざる幸ひに之を望んで日夜に走り近づく而已、基督教は全能全知美德圓滿の眞神の旨に本づく者なれば常に天下の人を導きて至善の境に向て進歩せしめて止むこと無し、天國の廣大なる福德が此土に満溢るに至るに非れば、此天啓の基督教は決して廢物となる事なし、是我が固く信じて疑はざる所なり。

明治二十一年十月十五日印刷

同 年同月十九日出版

定價七錢

筆花者

芝區葺手町十八番地

高橋五郎

發所者

京橋區築地二丁目廿二番地

栗本長七

印刷者

神田區表神保町三番地

鈴木幾次郎

印刷所

京橋區築地二丁目十五番地

桑原八郎次

發賣所

京橋區築地二丁目十三番地 東京聖教書類會社

京橋區築地二丁目廿二番地 一二三書店

神田區錦町十字屋

大 京橋區三十間堀二丁目 江藤書店

賣 京橋區銀坐三丁目 十字屋

捌 京橋區金六町 神谷書店

所 京橋區新榮町 池田書店

芝區田村町 鈴木庄兵衛

19
73

